

中国における大学院への進学意識

—学術学位と専門職学位の比較—

韓 冀 娜

はじめに

1999年以來、急速な経済成長に伴い、中央政府は高等教育の発展を促進するための戦略決定を行っており、中国の高等教育は飛躍的な発展を遂げた。「2011年、高等教育の総規模は3,167万人に達して世界第1位となり、2002年に15%だった粗就学率も26.9%まで向上した」（大学評価・学位授与機構、2013、p.3）と中国教育部は発表した。こうした高等教育の拡大は学部のみではなく、大学院レベルも世界で屈指の規模に成長している。2013年の修士課程進学志望者は176万人⁽¹⁾で、同年度大卒者全数の699万人⁽²⁾の約25%を占めている。これは、約4人に1人の大学生が大学修了後の進路として大学院進学を希望することを意味している。

図1は、1978年の「改革開放」政策が実施されて以来、中国の大学院教育の量的変遷を表すものである。科教興国（原語「科教兴国」）と人材強国戦略⁽³⁾の一環として、中国政府は大学院教育の発展に力を入れた。1985年に公布された「中共中央教育体制改革に関する決定」⁽⁴⁾では、大学院教育が高等教育を発展させるための主な手段であると高く位置付けられた。1978年にわずか10,934人だった大学院在学者数は、1998年には198,885人に達した。さらに1999年以後、大学院教育の安定した拡大は、一転して急速な拡大となっている。1998年に72,508人しか大学院に進学しなかったが、2013年には進学者数が611,381人までに急上昇した。

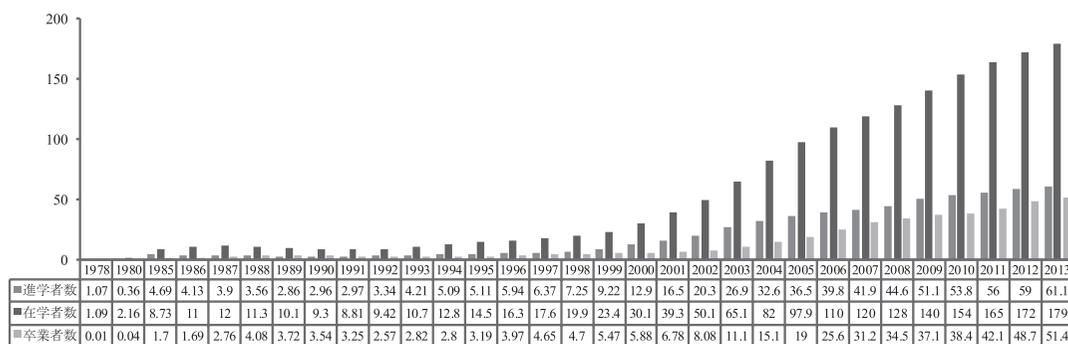


図1 大学院教育の量的拡大（万人）

出典：『中国統計年鑑』により筆者作成

大学院教育の規模拡大の直接原因は、1998年の高等教育大拡大政策⁽⁵⁾の結果だと考えられる。高等教育の拡大政策の下で、まず学部教育の規模が大きく拡大し、1998年から2013年までの15年間、学部教育の進学者数は1,083,627人から9倍の9,730,840人⁽⁶⁾に急増した。「このような急激な大衆化政策によって、大卒者数が急増し、深刻な大卒者の就職難問題を引き起こしてしまった。大学卒業後の就職難を回避するため、またより高い学歴の収益率を求めるために、数年間後に、政府がまた大学院の拡大に踏み切った」（黄・李，2009，p. 93）と黄・李らは指摘した。

以上の現状を踏まえ、従来研究機関として捉えられることが一般的だった大学院が、教育機関に生まれ変わろうとしている。昔ながらの学術研究を大学院への進学動機とする人が少なくなり、大学修了後の進学には新たな意味が与えられるようになった。そこで、本稿は中国における大学院への進学意識を明らかにすることを目的とする。まず、中国大学院教育の制度と構造を整理する。次に、具体的なデータをもって学術学位と専門職学位別で、大学院の選択理由を明らかにする。最後に、中国における大学院への進学目的の特徴について検討する。

1. 専門職学位教育の導入

中国において、大学院制度及び学位審査制度が、1981年1月「中華人民共和国学位条例」（中国語）の実施により基本的に完成された。実際に、中国の大学院教育は1922年1月に北京大学研究所国学問の設置に遡ることができる（黄・李，2009，p. 83）。しかし、当時、現在のような修士号、博士号などの学位授与はまだなかった。現代的な意味での大学院教育は、1939年4月に民国政府によって公布された「学位分級細則」と「学位授与法」から開始された（趙，2010，p. 2）。1949年中華人民共和国の建国後も大学院教育を続けた。1953年に国家高等教育部により発布された「高等教育大学院生養成暫定規則（草案）」⁽⁷⁾は、大学院教育が大学教員と科学研究の人材を養成することを目的とすることを明確に示している。この草案から見れば、設置当初の大学院教育は高等教育機関の教員及び科学研究に携る志向を持つ者の養成に特化していたと言えるだろう。

大学院教育制度が正式に実施された5年後の1986年に、中央政府は大学院教育について、「現代化に向かい・世界に向かい・未来に向かい発展すべき」⁽⁸⁾という政策方針を打ち出し、これにより、中国における研究系大学院教育が急速に発展した。しかし、その後、科学技術の発展によって一部の職業の専門性がますます高まり、高度な専門知識を必要とする職業人材の養成が次第に重視されるようになり、学術研究のほかに、実践能力の養成も注目され、より高水準の教育が必要となった。楠山も指摘しているように、従来の大学院教育は主として高度な学術・研究職従事者を養成するために行われており、高度な実践の応用的人材を大量に養成するという必要にできていない（楠山，2002，p. 76）。そこでこのような問題を解決するために、高いレベルの専門技術を持つ人材の養成を行う専門職学位の導入が進められた。1990年、中国國務院学位委員会は答申を行い、正式に専門職学位を導入することを決め、翌年から募集を始めた。更に、1992年に國務院学位委員会は専門職学位証書の授与を決定し、学位制度が新たな一步を踏み出した。

現在中国には分野別で19種類の専門職学位がある。修士レベルでは法律、教育学、工程（Engineering）、建築学、臨床医学、工商管理、農業学、獣医学、公共管理、口腔医学、公共衛生、軍事学、会計学、体育、芸術、園林、漢語国際教育、翻訳、ソーシャルワークの19分野にわたる（陳，2010，p.242）。また、2009年より全日制専門職大学院制度が始まった。新卒大学生を募集対象とする専門職大学院は全日制であり、従来の1年から3年間の職歴を持つ社会人を対象とする専門職大学院と大きく異なるのである。全日制専門職大学院制度の実施に伴い、専門職学位課程の入学者数が大きく増大している。

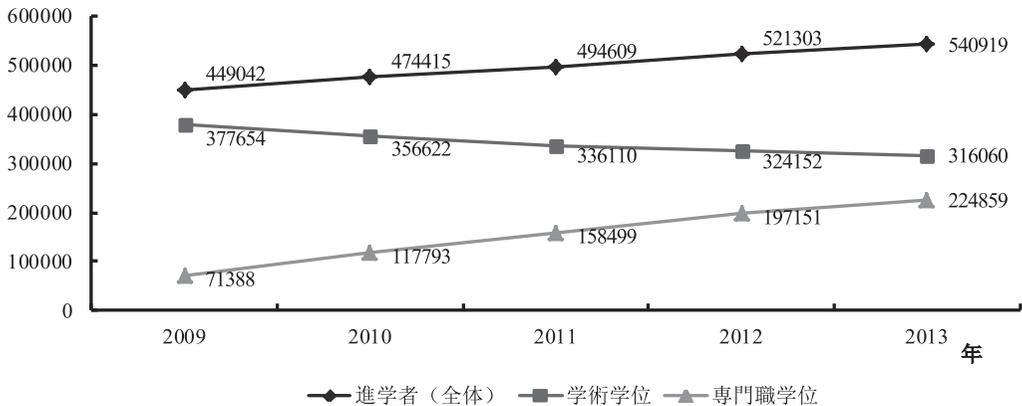


図2 学位学位と専門職学位別の進学者数の変化（人）

出典：『中国統計年鑑』により筆者作成

図2から、全日制専門職大学院制度が実施された初年度からその募集状況がますます拡大する傾向を見せていることがわかる。2009年専門職学位課程の進学者数は僅か71,388人であり、同年度の大学院進学者総数の449,042人に比べると約1対6であった。ところが、2013年になると、専門職学位課程の進学者数は224,859人となり、同年度の大学院進学者総数の4割以上を占めている。それに、進学者数がやや縮小している学位学位課程に対し、専門職学位課程の進学者数は急速に増え続けている。

2. 学位タイプ別の選択理由に関する分析結果

本稿の分析に使用するデータは、筆者が2015年6月から7月にかけて天津市にある3大学の修士課程の在学者を対象として実施した質問紙調査の結果である。質問紙の配布数は3大学で合計360部、そのうち320部の有効回答を得ている。有効回答率は88.9%である。また、この3大学はいずれも985プロジェクトまたは211プロジェクト⁽⁹⁾のエリート大学であり、中国大学院教育の把握に対して一定の代表性を持つものと認識している。

2.1. 誰が学術学位を選んだのか

本調査では、女性 146 名（46%）と男性 174 名（54%）の有効回答を得た。また、学位タイプ別について見ると、「学術学位」を選んだ人の割合は 77% に対し、「専門職学位」を選んだ人の割合は 23% である。国家統計局が公表した『中国統計年鑑』では、2013 年時点で全国大学院またそれと同等な研究機関の在学者数は 1,495,670 人、そのうち、63% が学術学位、36% が専門職学位課程の学生である。このように、本調査の回答者の構成は中国全土の高等教育事情と比較的近い割合になっていると思われる。

では、学術学位または専門職学位を選んだ学生はどのような性別構成であろうか。学位タイプ別に性別の内訳を見たのが表 1 である。

表 1 学位タイプ別、回答者の性別構成（%）

	女性	男性	合計 (N)	p
学術学位	49.4%	50.6%	100.0% (247)	*
専門職学位	32.9%	67.1%	100.0% (73)	

* $p < .05$

学位タイプ別の性別に関しては、統計的な有意差があることがわかった。具体的には、学術学位課程では男女の割合が半々であるのに対し、専門職学位課程では男性が 67.1%、学術学位と比べて男性の割合が高いことがわかった。言い換えると、女性は専門職学位より、学術学位を選ぶ傾向にある。

本調査では、「学術学位」を選んだ学生に対して、5 項目の選択理由の該当の度合いを尋ねた。図 3 をみると学術学位の選択理由として、「社会的評判がいい、就職に有利」（53.5%）が最も多く、最も少ないのは「学術研究に興味を持つため」（13.5%）である。学術研究に興味があって学術学位を選んだのではなく、就職のことを念頭に置きながら進学した学生は少なくない。つまり、学術学位教育を経て高度な学術研究者になるのではなく、就職する際に自己 PR を高めていこうとする学生が多くいることがうかがえる。

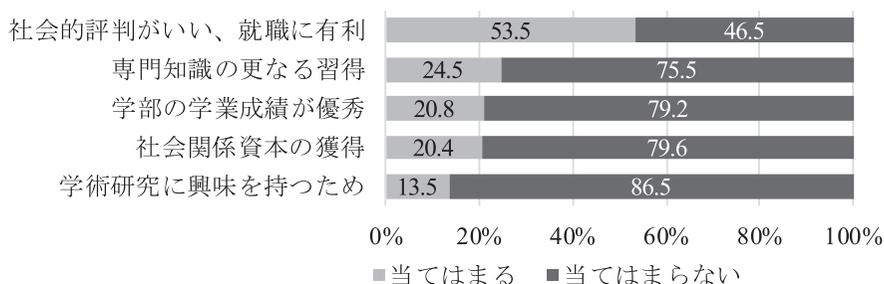


図 3 学術学位を選択した理由（%）

2.2. 誰が専門職学位を選んだのか

本節では、専門職学位への具体的な選択理由を考察する。学術学位への選択理由と同じく、専門職学位を選んだ理由として、5項目を尋ねた。各項目の回答割合を示したものが図4である。

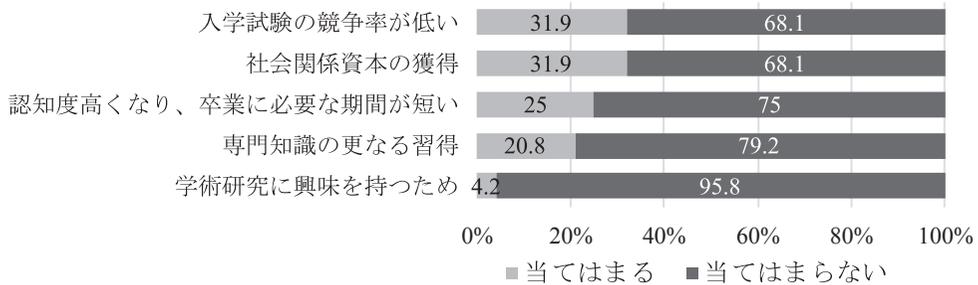


図4 専門職学位を選択した理由 (%)

専門職学位選択の理由として「当てはまる」と回答した学生の割合が最も高いのは「入学試験の競争率が低い」と「社会関係資本の獲得」であり、2項目ともに31.9%である。ここでの「社会関係資本」とは、友達を作り、社交圏を広げることを意味している。高い社会評価を得てよりよい役職に就くための学術学位と比べ、専門職学位課程の学生は大学院に通うことによって人脈作り、社会地位を高めようとする傾向にある。さらに、「当てはまる」の割合が一番低い「学術研究に興味を持つため」(4.2%) および次の「専門知識の更なる習得」(20.8%) に鑑みれば、専門職学位課程の学生は学習意欲と知識の更なる習得の面に消極性を示していると言えるだろう。

「入学試験の競争率が低い」に関しては、社会認識上の問題だと思われる。専門職学位は比較的に新しい制度であるため、伝統的な学術学位教育に及ばないものだとよく思われる。また、陳も指摘したように、中国の労働市場では、専門職学位を学術学位とあまり区別せず、建築学以外に、ほとんどが職業資格と連動していないのが現状であり、そのため専門職学位の特色が無視されがちである(陳, 2010, p. 246)。専門性を活かさず、社会側がしばしば学術学位より低い地位に専門職学位を位置づけている。試験志願者にマイナスのイメージを与えてしまい、専門職学位への進学意欲を低めてしまうのである。なお、専門職学位選択理由の自由回答からもこの現状を反映している。自由回答では、12名の回答者のうち、5名が「学術学位の入学試験に受からなかったため」専門職学位を選択した。

3. 大学院への進学意識

3.1. 大学院に進学した目的の全体的傾向

これまで、学術学位と専門職学位の選択理由について、各自の特徴に応じて別々の質問を設けて確認してきた。本節では、所属する大学院への進学目的を分析する。そのうえ、学術学位と専門職学位に分けてその傾向を示し、両者の差異について考察する。大学への進学目的として11項目を尋ねた。各項目の回答割合を示したものが図5である。

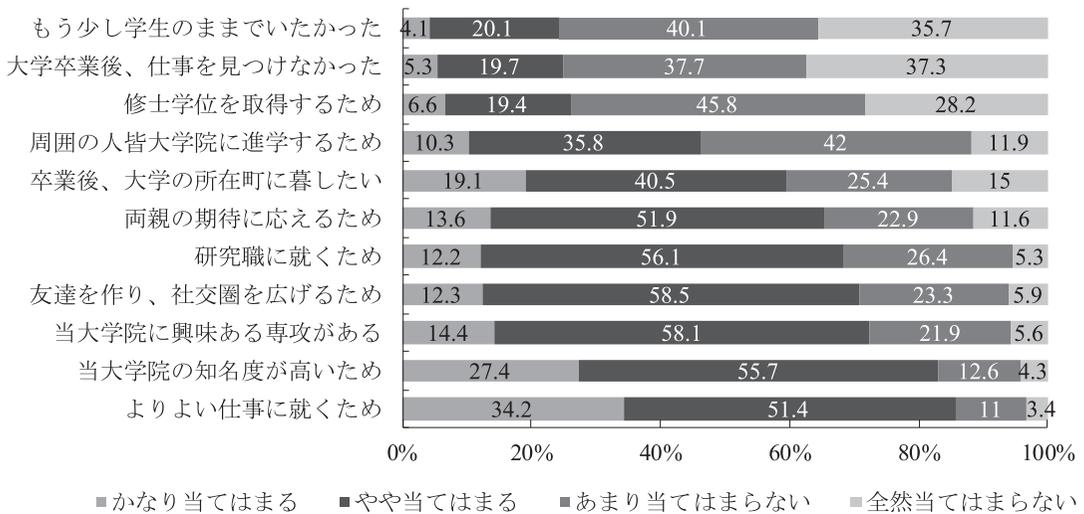


図5 大学院への進学目的 (%)

「かなり当てはまる」と回答した学生の割合が最も高いのは「よりよい仕事に就くため」(34.2%)、2番目に高いのは「当大学院の知名度が高いため」(27.4%)である。これら2つは「やや当てはまる」を合わせればともに8割以上の者が「当てはまる」と回答している。中国では、「高学歴＝よい将来(高役職、高所得、高社会地位)」の意識が強まっており、出身校や学歴によって、待遇が異なっていることが現実である。前節でも述べたように、本研究では、考察対象としての3大学はいずれも社会的評価の高いエリート大学である。学生は将来によりよい仕事に就きたいと考えて大学院への進学意識がうかがえる。

「かなり当てはまる」の比率が全体的に低い一方、「やや当てはまる」に着目すると、半数以上を占めている項目は6つがある。「よりよい仕事に就くため」(51.4%)と「当大学院の知名度が高いため」(55.7%)のほか、58.5%の学生が「友達を作り、社交圏を広げるため」、51.9%の学生が「両親の期待に応えるため」と選択した。大学院教育は高等教育の最高段階であり、エリート教育の性質を持ち、優れた人材を養成するところだと考えられる。そのため、“子どもにはできるだけ大学院教育を受けさせるのがよい”，と考えている中国の親が多い。大学院、とりわけエリート大学の大学院に入ったことは学生本人にとっても、家族にとっても誇りに思われ、自慢することである。

つぎに、表2を見ると、「当大学院に興味ある専攻があるため」と「研究職に就くため」の関連について、「興味ある専攻がある」に当てはまると回答した学生が研究職に就く意欲が高い傾向にある。社会の就職プレッシャーがますます厳しくなることにより、雇用側は出身学校や最終学歴をことさら重視し、学歴を人材選抜の基本条件とするようになってきているなか、学生は特に学術研究に興味を持って大学院に進学するわけではないが(図3、図4)、専門分野への関心により、教育内容を重要視し、研究職に就きたい意識がまだ強く残っていると言えるだろう。

表2 「当大学院に興味ある専攻があるため」と「研究職に就くため」の関連

	研究職に就くため		合計 (N)	p
	当てはまる	当てはまらない		
興味ある専攻がある	当てはまる	77.5	100.0 (231)	***
	当てはまらない	44.3	100.0 (88)	

***p<.001

3.2. 学術学位と専門職学位の進学目的の差異

本稿の調査対象者が大学院修士課程の学生であるため、出生年が1980年代後半と1990年代前半に集中している。特に1990年代前半の学生が一番多く、全体の74.7%を示している。また、入試形態に関して、一般入試と推薦入試で大学院に入ってきた学生が全体の9割弱であり、回答者は主に大学を卒業してストレートで大学院に進学した学生である。そして、学位種類別の年齢層を見てみると、学術学位課程在籍者の8割以上が30歳以下、専門職学位課程在学者の5割強が30歳以上である。尚且、社会人入試を経て入学した学生（仕事経験を持っている人）の割合を見れば、学術学位は3.2%に過ぎないのに対し、専門職学位は39.7%である。このように、学術学位と専門職学位の年齢層と入試形態が分かれているため、進学目的も異なると考えられる。

本調査を通じて尋ねた11項目の大学院への進学目的について、学位タイプ別にその傾向を示したものが表3である。なお、本節では「かなり当てはまる」と「やや当てはまる」を「当てはまる」に、「あまり当てはまらない」と「全然当てはまらない」を「当てはまらない」として分析する。

表3より、学術学位と専門職学位間には統計的な有意差が見られたのは「研究職に就くため」、「両親の期待に応えるため」、「よりよい仕事に就くため」および「修士学位を取得するため」の4項目である。「よりよい仕事に就くため」は学術学位に、「修士学位を取得するため」は専門職学位に該当する項目であることが明瞭である。けれども、「よりよい仕事に就くため」に関しては、学術学位課程の学生の90.2%は当てはまると回答しているのに対し、69.9%の専門職学位課程の学生も当てはまると選択した。14億という巨大な人口のなかで勝ち抜くため、学歴が高ければチャンスが多くなるという確信が広まりつつある。特に学術学位の場合、伝統的な大学院教育として社会から重要視され、企業側も学術学位教育を受けた人を優れた人材と認識して積極的に採用するため、大学院に進学することにより、よりよい仕事に就くことを強く望んでいる学生が多くいることがわかる。

「研究職に就くため」でも学術学位のほうは専門職学位より当てはまると回答した割合が高い。多くの学術学位課程の学生は大学院修了後、大学教員になる、あるいは研究所で働くことを期待している。それに対し、専門職学位課程の学生は「修士学位を取得するため」と考えて大学院への進学を意識している。一方、「当大学院に興味ある専攻があるため」は学位タイプ間で統計的な有意差がないが、それを目的として入学した学生は7割以上にもものぼっている。学術学位課程の学生であっても、専門職学位課程の学生であっても、研究に興味を持って進学したわけではないが、専攻に対する関心

表3 学位タイプ別の大学院の進学目的（%）

		当てはまる	当てはまらない	合計 (N)	p
よりよい仕事に就くため	学術学位	90.2	9.8	100.0 (246)	***
	専門職学位	69.9	30.1	100.0 (73)	
研究職に就くため	学術学位	73.2	26.8	100.0 (246)	***
	専門職学位	52.1	47.9	100.0 (73)	
両親の期待に応えるため	学術学位	69.1	30.9	100.0 (246)	**
	専門職学位	52.8	47.2	100.0 (72)	
修士学位を取得するため	学術学位	23.2	76.8	100.0 (246)	*
	専門職学位	35.6	64.4	100.0 (73)	
当大学院の知名度が高いため	学術学位	82.4	17.6	100.0 (245)	n. s.
	専門職学位	84.9	15.1	100.0 (73)	
当大学院に興味ある専攻があるため	学術学位	72.8	27.2	100.0 (246)	n. s.
	専門職学位	71.2	28.8	100.0 (73)	
友達作り，社交圏を広げるため	学術学位	71.8	28.2	100.0 (245)	n. s.
	専門職学位	67.1	39.2	100.0 (73)	
卒業後，大学の所在町に暮らしたいため	学術学位	59.3	40.7	100.0 (246)	n. s.
	専門職学位	60.3	39.7	100.0 (73)	
周囲の人皆大学院に進学するため	学術学位	45.9	54.1	100.0 (246)	n. s.
	専門職学位	46.6	53.4	100.0 (73)	
仕事を見つかなかったため	学術学位	23.6	76.4	100.0 (246)	n. s.
	専門職学位	30.1	69.9	100.0 (73)	
もう少し学生のままだった	学術学位	24.4	75.6	100.0 (246)	n. s.
	専門職学位	23.3	76.7	100.0 (73)	

***p < .001 **p < .01 *p < .05

及び教育内容への重要視は全体的な傾向からうかがえた。

また、「当大学院の知名度が高いため」に着目すると、学術学位と専門職学位課程の学生の8割以上は当てはまると回答した。中国では日本より学歴社会が進んでいる。大学院教育の量的拡大に伴い、修士課程卒業者の数も大幅に増加しているなか、大学院を修了したからといって必ず就職できるというものではなくなった。知名度の高いエリート大学院への進学は、新たな競争を引き起こしている。

さらに、大学院の専門分野によって進学目的が異なる可能性も考えられるため、統計的有意差が見られた4項目に、それぞれ「大学院の専攻」という項目を統制変数として入れて分析した(表4)。

まず、「よりよい仕事に就くため」について、理工系の学生は、学術学位であれ、専門職学位であれ、当てはまると回答した割合が9割近くであり、全体に就職を意識して進学することが確認できた。

人文社会系学生の場合は、学術学位課程の学生が約9割の「当てはまる」に対し、専門職学位のほうは5割強に過ぎない。学術学位と専門職学位の間で1%水準で有意差が見られており、専門職学位課程の学生より学術学位課程の学生は強い就職目的を持っていると言えよう。そして、「研究職に就くため」、「修士学位を取得するため」と「両親の期待に応えるため」の3項目も同じ傾向がうかがえた。しかし、専攻の統制変数を入れたことにより、効果が見られたのは人文社会系学生のみであり、理工系学生に関しては、学術学位と専門職学位の間で有意な差がなかった。

表4 三重クロス集計（大学院専攻*学位種類*進学目的）（%）

		よりよい仕事に就くため 当てはまる 当てはまらない		合計 (N)	p
理工系	学術学位	90.1	9.9	100.0 (245)	n. s.
	専門職学位	88.4	11.6		
人文社会系	学術学位	90.7	9.3	100.0 (72)	***
	専門職学位	41.4	58.6		
		研究職に就くため 当てはまる 当てはまらない		合計 (N)	p
理工系	学術学位	74.3	25.7	100.0 (245)	n. s.
	専門職学位	60.5	39.5		
人文社会系	学術学位	67.4	32.6	100.0 (72)	*
	専門職学位	41.4	58.6		
		両親の期待に応えるため 当てはまる 当てはまらない		合計 (N)	p
理工系	学術学位	69.3	30.7	100.0 (244)	n. s.
	専門職学位	71.4	28.6		
人文社会系	学術学位	69.8	30.2	100.0 (72)	***
	専門職学位	27.6	72.4		
		修士学位を取得するため 当てはまる 当てはまらない		合計 (N)	p
理工系	学術学位	23.3	76.7	100.0 (245)	n. s.
	専門職学位	25.6	74.4		
人文社会系	学術学位	20.9	79.1	100.0 (72)	**
	専門職学位	51.7	48.3		

*** p < .001 ** p < .01 * p < .05

4. まとめ

1981年「中華人民共和国学位条例」の実施により、中国の大学院教育は未だかつて見たことがないほどに発展し続けている。1980年の大学院在学者数は21,604人、1998年には198,885人に達しており、約821倍の増加率である。さらに、1998年の高等教育大拡大政策および2009年全日制専門職大学院制度の実施に伴い、2013年の大学院在学者数は1,793,953人に達し、1998年に対して802倍の増加率を維持している。大学院における募集規模が毎年拡大し、大学院教育を学部教育の自然な延長として理解してしまう学生も出てきている。本稿では、中国における大学院教育が大きく拡大しているなか、大学院への進学意識を明らかにしたものである。分析にあたっては、学術学位と専門職学位という学位タイプ別に比較を行った。

まず、大学院教育の人材養成について、学術学位教育が教育と科学研究のための人材を養成するのに対し、専門職学位教育は高いレベルの専門技術を持つ人材を養成する。しかし、学術学位と専門職学位の選択理由を分析したい、就職の高学歴化のなかで修士学位を取得することの必要性を意識して大学院に入った学生が多数である。「創造性豊かな優れた研究・開発能力を持つ研究者等、高度な専門的知識・技術を持つ専門職業人、確かな教育能力と研究能力を兼ね備えた大学教員の養成、知識基盤社会を多様に支える高度で知的な素養のある人材の養成」⁽¹⁰⁾であるべき大学院教育は、進学者にとって就職の踏み石となりつつある。また、学術学位課程の学生は「社会的評判がいい、就職に有利」という直接効果を狙って大学院に進学するのに対し、専門職学位課程の学生は「社会関係資本の獲得」、いわば間接効果を意識して選択した。その原因は社会認識の問題であり、大学院教育の課題である。國務院学位委員会によれば、学位の主な役割は学位獲得者の学術水準を認可することで、雇用に関しては、特定の職業に従事することの必須条件と規定していない⁽¹¹⁾（陳，2010，p. 240）。したがって、専門職学位と職業資格との結びつきを弱くしてしまったと言わざるを得ない。このように、中国労働市場では、専門職学位を学術学位とあまり区別せず、専門職教育の専門性を活かさず、社会側は歴史の短い専門職学位教育より、伝統のある学術学位教育が優れた人材を養成できると認識してしまう。

次に、大学院の進学目的について分析した。全体的な傾向として学生が「よりよい仕事に就くため」と「当大学院の知名度が高いため」をあげる割合が高く、就職を念頭に置いて大学院に入学した者が多数である。就職環境がますます厳しくなることにより、雇用側は出身学校や最終学歴をことさら重視し、学歴を人材選抜の基本条件とするようになってきているなか、「高学歴＝よい将来（高役職、高所得、高社会地位）」、すなわち有名校に入って高学歴を身につければ、よい就職ができ、高い社会地位につけるという認識が世間に広がっている。学生にとって、勉強に集中してよい成績をとり、上位レベルの大学院に入れば、将来の成功に一歩近づけることになるのである。

続いて、学位種類別の進学目的を見ると、学術学位課程の学生は9割以上が「よりよい仕事に就くため」を目的として進学した、いわゆる就職のことを強く意識している。また、「修士学位を取得するため」に関しては、5%水準の有意差があり、専門職学位課程の学生は学術学位課程の学生よりも

12.4 ポイント、当てはまると回答した人が多い。つまり専門職学位課程の学生は修士号の取得に一層関心を示していると言えよう。中国における就職の高学歴化という社会的動向に比べられる人材になろうとして大学院に進学した者は多くいるのだろう。また、「両親の期待に応えるため」に関しては、専門職学位課程の学生より、学術学位課程の学生は当てはまると回答した割合がやや高い。それは、専門職学位課程の学生は社会人入試を経て入学した者が多数であるため、学術学位課程の学生に比べてやや年齢層が高いと考えられるからである。そのような学生は大学院への進学は両親の期待より自身の決断によるところが大きいのかもしれない。

最後に、今後の研究課題を提示しておきたい。第1は、学術学位と専門職学位という2つの学位タイプ別で大学院への進学目的と学位種類の選択理由について分析を加えてきたが、進学目的間の相互作用や、選択理由間の繋がりについても考察する必要があると思われる。第2は、大学院に進学できることについて、学部での学習状況による影響も考えられる。そこで、学部教育と大学院進学との関連を検討することが重要であろう。第3に、学生が多様な層から構成されているというのであれば、どのような層が、大学院に進学する際に有利な位置に立っているのかについての分析も求められよう。

注(1) 中国研究生招生信息网

<http://yz.chsi.com.cn/kyzx/kydt/201311/20131118/628249028.html>（最終閲覧日：2015年9月19日）

(2) 中国教育在线

<http://www.eol.cn/html/c/2014gxbys/>（最終閲覧日：2015年9月19日）

(3) 「科教興国」は科学教育による国家振興の略語である。1996年、第八回全国人民代表大会第四回会議において、第9次「5ヵ年計画」を正式に提出し、「科教興国」は中国の基本国策となった。経済と社会発展に人材・知力の保証を提供し、人材育成を促進し、各種の人材の知力を充分に発揮できるように良好な環境を提供するために、2007年、人材強国戦略は、科学教育興国戦略、持続的発展戦略と共に中国の特色ある社会主義の三大基本戦略として取り上げられた。

(4) 原語は《中共中央关于教育体制改革的決定》である。

(5) 1990年代の末に経済危機に陥っている中で、高等教育の入学定員を増やすことで、授業料という家計からの教育投資を増やし、社会全体の消費を促すという認識から、高等教育の拡大が政策的に打ち出された。

(6) 中华人民共和国统计年鉴

<http://www.stats.gov.cn/tjsj/ndsj/>（最終閲覧日：2015年9月19日）

(7) 原語は《高等学校培养研究生暂行办法（草案）》である。

(8) 満都拉、2013、「中国の全日制専門職大学院のあり方について」p.288。

(9) 211プロジェクトは1993年に当時の国家教育委員会（現教育部）が、21世紀に向けて100余りの重点大学を構築することを目的として実施された国家プロジェクトである。現在までに112校が対象校に指定されている。985プロジェクトは1998年に北京大学の100周年創立会議にて、当時の江沢民国家主席による「中国で世界一流大学を建設しなければならない」という発言を契機に、中国の一部の大学や学科を世界一流の大学にするために重点的に集中的に支援することを目的として、1999年から実施された国家プロジェクトである。現在までに34校が指定されている。

(10) 山本眞一 2009、「大学院研究の重要性」p.4。

(11) つまり、例えば、医者、エンジニア、弁護士などの職業に関しては、専門職学位の職業志向は明らかであ

るが、その学位がなければ、その職業に従事できないわけではない。

参考文献

- 王 傑, 2008, 『中国高等教育の拡大と教育機会の変容』株式会社・東信堂。
- 河野 志穂, 2014, 「どのような学生が教職大学院に通っているのか」, 『全国教職大学院学生意識に関する調査研究報告書』, pp. 4-15。
- 楠山 研, 2002, 「学問学位と専門職学位」, 『文革後中国における大学院教育』第7章, pp. 72-84。
- 黄福壽, 李敏, 2009, 「中国における大学院教育—制度の成立, 量的拡大と多様化」, 『大学院教育の現状と課題』
広島大学高等教育研究開発センター, pp. 81-100。
- 黄 梅英, 2008, 「中国における社会人大学院教育の構造」, 『尚綱学院大学紀要』第56集, pp. 161-174。
- 蔣 純青, 2011, 「中国における学歴格差社会」, 専修大学社会科学研究所月報, 581, pp. 32-58。
- 陳 曦, 2010, 「中国における専門職学位の動向」『名古屋高等教育研究』第10号, pp. 237-251。
- 趙 永東著, 根岸 智代訳, 2010, 「中国大学院生養成モデルにおける『学部化』要員」。
- 大学評価・学位授与機構, 2013, 「中国高等教育質保証 インフォメーション・パッケージ」
- 南部 広孝, 2002, 「大学院教育の制度化」, 『文革後中国における大学院教育』第1章, pp. 1-18。
- 南部 広孝, 2002, 「大学院教育の量的拡大」, 『文革後中国における大学院教育』第2章, pp. 19-28。
- 松本 暢平, 2014, 「教職大学院への入学目的と現在所属する大学院の選択理由」, 『全国教職大学院学生意識に関する調査研究報告書』, pp. 16-25。
- 満 都拉, 2013, 「中国の全日制専門職大学院のあり方について：大学生の進路選択の視点から」『東京大学大学院教育学研究科紀要』第52巻, pp. 287-296。
- 矢田裕美, 2013, 「中国高等教育界の新たな潮流—世界の熾烈な競争を勝ち抜くための戦略的取り組み」『平成24年度日本学術振興会 国際学術交流研修 海外実務研修報告集』, p. 201
- 山本 眞一, 2009, 「大学院研究の重要性」, 『大学院教育の現状と課題』広島大学高等教育研究開発センター, p. 4。

WEB SITE

中国研究生招生信息网

<http://yz.chsi.com.cn/kyzx/kydt/201311/20131118/628249028.html> (最終閲覧日：2015年9月19日)

中国教育在线

<http://www.eol.cn/html/c/2014gxbys/> (最終閲覧日：2015年9月19日)

中华人民共和国统计年鉴

<http://www.stats.gov.cn/tjsj/ndsj/> (最終閲覧日：2015年9月19日)

Science Portal China

<http://www.spc.jst.go.jp/> (最終閲覧日：2015年11月2日)